

札幌ドーム新設工事

受賞機関 札幌市都市局建築部プロジェクト建築担当課

はじめに

札幌ドームは、都心から南東へ約7kmのところ
に位置し、近くには地下鉄東豊線福住駅がある。また、
敷地は国道36号線や羊ヶ丘通の幹線道路に面して
おり、JR札幌駅から車で約25分、新千歳空港からバ
スで約50分と比較的交通アクセスにめぐまれたところ
である。

また、敷地は農林水産省「北海道農業試験場」の
市街地に接する約31haを取得した。当該敷地の北・
西側は札幌の市街地が広がり、南・東側は自然豊か
な丘陵地帯へとつながる緑の空間（農業試験場）が
広がっている。

このような環境において、ワールドカップサッカ
ーの開催やプロ野球さらにはコンサート等各種ピッ
クイベントに対応できる全天候型ドームの建設を行
った。

このドームの建設にあたっては、平成9年2月に
技術提案型国際コンペを行い、平成10年6月から工
事に着手し平成13年6月にオープンした。

事業概要

工事名：札幌ドーム新設工事

事業期間：平成8年度～平成13年度

事業費：42,200百万円

事業の特徴

札幌ドームは、施設のもつ都市機能と羊ヶ丘の風
景にいかになじませ、雄大な自然の連続性を確保さ



移動式サッカーフィールド

せるということから基本コンセプトを「ガーデニン
グ」、すなわち「庭づくり」において敷地全体を「ス
ポーツの庭」として計画したものである。

敷地内には8,000本の植樹や水辺空間を設けたほ
か、世界で活躍している芸術家の作品「アートコン
パンド」を配置し、スポーツや各種イベント以外に
も敷地内を散策するなど、より多くの市民に親しん
でもらえるように全体を一つの作品として設計され
た。

札幌ドームの最も大きな特徴としては、人工芝で
行う野球と天然芝で開催するサッカーの両立を可能
にするため「タテ120m」「ヨコ85m」「重さ8,300t」
のサッカーステージを空気圧で浮上させ34個の車輪
で移動する「ホヴァリングステージ」を核とした可
動システムを設置している。

天然芝のサッカーフィールドは通常、屋外アリー
ナに置いて芝を養生し、サッカーの試合時この可動
システムにより屋内アリーナに移動する。

野球モードからサッカーモードへの転換では、ム
ービングウォールを開き、回転式可動席及び開閉
式可動席の移動、ピッチャーズマウンド・各塁ベ
ースの降下、人工芝の巻取り、ホヴァリングス
テージの移動・旋回、開閉式可動席の移動、ム
ービングウォールの閉鎖という工程で行い、その作業
時間は約5時間となっている。

受賞賛助会員 大成建設(株)



全 景